

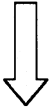
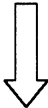
口蓋裂による咀嚼障害の矯正治療の研究

研究協力者

大阪大歯学部 作 田 守

大阪大学歯学部附属病院矯正科における口唇・口蓋裂患者取り扱いの実態は下記の通りですので報告いたします。

1. 昭和54年2月末日現在における患者数は昭和42年4月以降を調査したとこ、総数は589名で性別では男子342名(58.1%)、女子247名(41.9%)であった。裂型別でみると、男女の合計で、唇・顎裂67名(11.4%)、唇・顎・口蓋裂498名(84.6%)、口蓋裂24名(4.1%)であった。最も頻度の高い唇・顎・口蓋裂を細分すると、片側性412名(69.9%)、両側性104名(17.7%)であり、片側性の中では左側261名(44.3%)、右側(22.6%)であった。(%値は589名を母数とした値である)。
2. 昭和53年4月1日～昭和54年2月28日のほぼ1年間の口唇・口蓋裂患者受付総数は92名で性別は男子58名、女子34名であった。矯正での初診時年齢は4才未満から20才以上に分布したが、7～11才の範囲の頻度が高く、最も頻度が高かったのは男女共に7才で、男子19名女子9名であった。裂型では"1"と同様、左側唇・顎・口蓋裂が男女共最も多く、男子23名女子17名であった。
3. 現在矯正科に通っている口唇・口蓋裂患者総数は498名で性別は男子269名女子229名である。これら患者の初診時年齢は4才未満から20才以上に分布したが、頻度が高いのは6才～12、3才でその内特に高いのは男女共7才であった。裂型は"1"、"2"同様左側唇・顎・口蓋裂が男女共最も多く、男子125名女子117名であった。
4. 収集している資料は初診時に顎態模型を作成、頭部X線規格写真(中心咬合位で正・側貌、前後方向と側貌安静位)、パノラマX線写真、正・側貌顔面写真などを採取し、以後治療経過中必要に応じて資料採得を行っている。
5. 他科との関連ではチームアプローチというほどのものではないが、必要に応じて口腔外科及び補綴科と治療方針に関する検討を行っている。
6. 矯正科の全医員が治療を担当し、とくに口唇・口蓋裂患者のみを扱うグループは作らず一般矯正患者と同様に治療を行っている。

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

大阪大学歯学部附属病院矯正科における口唇・口蓋裂患者取り扱いの実態は下記の通りですので報告いたします。

1. 昭和 54 年 2 月末日現在における患者数は昭和 42 年 4 月以降を調査したところ、総数は 589 名で性別では男子 342 名(58.1%)、女子 247 名(41.9%)であった。裂型別でみると、男女の合計で、唇・顎裂 67 名(11.4%)、唇・顎・口蓋裂 498 名(84.6%)、口蓋裂 24 名(4.1%)であった。最も頻度の高い唇・顎・口蓋裂を細分すると、片側性 412 名(69.9%)、両側性 104 名(17.7%)であり、片側性の中では左側 261 名(44.3%)、右側(22.6%)であった。(％値は 589 名を母数とした値である)。